



# 全国連合退職校長会

# 会報

令和7年度 総会挨拶

全国連合退職校長会  
会長 田中 昭光



令和7年度全国連合退職校長会総会開催にあたり、全国各地から代議員・理事の皆様方にご参加頂き有難うございました。全連退は昭和40年に結成され61年を迎えることになりました。設立以来、各都道府県の退職校長会が団結して組織の拡充・充実に努め、会員の親睦と福祉を図り、地域の文化や伝統を尊重

し教育振興に寄与してきました。文部科学省は、急激に変化する予測困難な社会の創り手の育成を図るため、「令和の日本型教育の構築」全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」に向け多様な質の高い教員人材を確保することを昨年末に中央教育審議会に諮問いたしました。

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

○ 確かな学力、豊かな心の育成、幅広い知識と教養

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

○ 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

○ 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

○ 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

○ 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

等々を挙げている。

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

政府は、国の教育施策として、2040年以降の社会を見据え

また、計画の実効性確保のための取組として、優れた教職員の確保のために、学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない教育の確保、児童生徒の安全確保などを公表しました。

祝  
辞

文部科学大臣 あべ 俊子様  
(代読) 初等中等教育局視学官  
水谷 尚人様



全国連合退職校長会 第六十  
一回総会が開催されますことを、  
お祝い申し上げます。  
会員の皆様におかれましては、  
長年にわたり教鞭をとられ、ま  
た、学校の責任者として我が国  
の教育の充実・発展に多大なる  
貢献をされ、現在もなお、教育

界の大先輩としてご尽力をいた  
だいておりますことに、深く敬  
意を表し、心から御礼申し上げ  
ます。

さて、生成AIの発展などに  
象徴される、将来の予測が困難  
な時代においては、「令和の日  
本型学校教育」を持続可能な形  
で継承・発展させることが重要  
です。

令和の日本型学校教育、すな  
わち、一人一人の子供たちの可  
能性を引き出す、個別最適な学  
びと、協働的な学びの一体的な  
充実の要となるのは、言うまで  
もなく、子供たちのためにご尽  
力いただいている教師の皆様で  
す。

一方で、現在の教師を取り巻  
く環境は、非常に厳しい状況に  
あり、教職の魅力を向上させ、  
教師に優れた人材を確保するこ  
とが不可欠です。

文部科学省としては、働き方  
改革の加速化、教師の処遇改善、  
学校の指導・運営体制の充実を

総合的に推進しており、国会  
に「公立の義務教育諸学校等の  
教育職員の給与等に関する特別  
措置法等の一部を改正する法律  
案」を提出し、先月衆議院を通  
過し、現在参議院において審議  
がなされているところです。

また、これからの時代にふさ  
わしい学習指導要領の在り方に  
ついて、より質の高い、深い学  
びを実現し、多様な子供たちを  
包摂する柔軟な教育課程を編成  
できるようにすると同時に、教  
師と子供の双方に余白を生み出  
すことができるよう、中央教育  
審議会の議論を踏まえながら、  
検討を進めます。

皆様におかれましても、文部  
科学省の取組への御理解と御協  
力をお願い申し上げます。また、  
教育に対する深い知識と経験を  
生かし、学校教育の更なる充実  
・発展のために、一層の御協力  
を賜りますようお願い申し上げ  
ます。

結びに、全国連合退職校長会

のますますの御発展と、御出席  
の皆様のご活躍を祈念いた  
しまして、お祝いの言葉とい  
たします。



ご来賓

全国校長会代表

全国連合小学校長会

会長 松原 修様

(代読) 事務局長 小泉与吉様



本日は、全国連合退職校長会第61回総会が盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。全国連合小学校長会を代表して心よりお慶び申し上げます。また、全国連合退職校長会の皆様におかれましては、日頃より、現職の校長を支えていただくとともに、伝統的に積み重

ねてこられた様々な取組や活動により、人材育成を推進し、「教育尊重の気運を高め教育振興への寄与」をされておりますことに、この場をお借りして敬意を表します。

さて、令和7年度は、次期学習指導要領改訂の議論が本格化するとともに、学校における働き方改革の実現に向けた取組が加速度的に進められる年になると捉えております。全連小といたしましては、前会長植村洋司が示してまいりました、「つながり」「学ぶ」「国に声を届ける」の三つ柱を本会活動の羅針盤として進めて参ります。

また、日本の学校教育が大きな転換期を迎える今、改めて、「学校を元気にする」すなわち「教員を元気にする」ということが大事だと考えております。校長は、組織のリーダーとしてまた教職に人生をささげてきた者として、その誇りややりがいを次世代に伝え、教員不足とい

う全国的な課題の解決に向けて、希望を持てる教員の未来像を提示していく役割があると捉えます。今後は、貴全国連合退職校長会と全国連合小学校長会が、より一層連携を深め、さらに前進してまいりたいと存じます。結びに、全国連合退職校長会の益々のご発展と、ご参会の皆様をはじめ全ての会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして挨拶いたします。



感謝状贈呈



会場風景

総会報告

日時 令和7年6月6日(金)

午前10時より

会場 きゅりあん(品川区立総合区民会館小ホール)

出席者 正副会長、常任理事、理事、監事、代議員等

111名

司会・進行

総務部長 橋本誠司

開会に先立ち物故者への黙祷

1 開会の辞 副会長 太宰 明

2 国歌斉唱

3 全連退綱領の唱和

主唱 事業委員長 藤崎武利

4 会長挨拶 会長 田中昭光

5 来賓祝辞

○文部科学大臣 あべ俊子様

(代読) 文部科学省初等中等教育局視学官 水谷 尚人様

○全国校園長会長代表

全国連合小学校長会

会長 松原 修様

(代読) 事務局長 小泉与吉様

6 来賓紹介 事務局長 川井 仁

7 議長選出

前日の理事会で中室清文、川端重義の両副会長を選出



会場風景

8 議事

第1号議案

令和6年度会務報告

総務部長 橋本誠司

第2号議案

令和6年度決算報告

並びに監査報告

・決算報告

会計部長 三上裕三

・監査報告

監事 坂爪靖夫

(P10)



議長団

第3号議案

令和7年度役員承認

副会長の退任と就任

(北海道地区)

千田 薫 ↓ 佐藤晴樹

(東北地区)

太宰 明 ↓ 福士寛樹

(関東甲信越地区)

川端重義 ↓ 土門能夫

(近畿地区)

中室清文 ↓ 和田良彦

(中国地区)

塩川 寛 ↓ 徳永正夫

(四国地区)

石川和幸 ↓ 西川和裕

(九州地区)

塚本俊郎 ↓ 緒方知秋

第4号議案

令和7年度活動目標並びに事業計画(案)

総務部長 橋本誠司

(P8・9)

第5号議案

令和7年度予算書(案)

会計部長 三上裕三

(P11)

第6号議案

「総会宣言」の採択

(P7)

読み上げ 副会長 川上憲治

※各提案は原案通り承認されました。

した。

9 感謝状並びに記念品贈呈

(P5)



感謝状贈呈

10 閉会の辞

副会長 塚本俊郎

感謝状並びに記念品贈呈者

(1) 退任副会長

千田 薫様 (北海道)

太宰 明様 (東北)

川端 重義様 (関東甲信越)

中室 清文様 (近畿)

塩川 寛様 (中国)

石川 和幸様 (四国)

塚本 俊郎様 (九州)

(2) 退任監事

坂爪 靖夫様 (東北)

澁谷美智子様 (関東甲信越)

高田 勇様 (東海北陸)

(3) 退任常任理事

澤口 正様 (千葉)

川人 邦夫様 (長野)

高橋 雄一様 (新潟)

岡野 仁司様 (東京)

村山 忠幸様 (東京)

(4) 退任理事

横山治八郎様 (大阪)

江本 博明様 (兵庫)

中川 俊隆様 (鳥取)

森 啓介様 (岡山)

林 健司様 (山口)  
長井 俊朗様 (愛媛)  
高木 眞様 (福岡)  
今村 統嘉様 (佐賀)  
上田由理子様 (熊本)  
池原 武様 (沖縄)



感謝状受領者代表挨拶



感謝状受領者

設立60周年記念講演会

(午後1時～2時40分)

講師紹介

講師 3・11震災語り部

菅原貞芳様 (元宮城県南

三陸町立志津川中学校  
長)

演題 『乱にいて治を忘れず』

『3・11から学んだこと』  
伝えたいこと』



※講演内容の要旨はこの会報の  
P12～15に掲載してあります。

各都道府県退職校長会 HP リンク

全連退HPに、各都道府県退職校長会HPへのリンクを張ることができます。  
ご希望の退職校長会は、事務局までご連絡ください。

info@zenrentai.org



全連退会員  
バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。  
送料を含めて、一個一、二〇〇円です。

なお、三十個以上まとめますと、一個一、〇〇〇円となります。

(全連退事務局)

令和7年度役員一覧

顧問	監事	常任理事	副会長	会長
入子祐三東京	青梅米木井澤廣隆喜志男彦岐茨秋阜城田	藤三永川荻橋加廣内大角大新立木 崎上井名原本藤川藤澤田橋井見村 武裕洋葉武誠誠岩重眞美達俊康茂 利三子子雄司雄男明郎子男一彦夫	緒西徳和川土福佐田 方川永田上門士藤中 知和正良憲能寛晴昭 秋裕夫彦治夫樹樹光	熊香広大石茨福北東 本川島阪川城島道京

理事(副会長)	理事(副会長)	理事(副会長)	理事(副会長)	理事(副会長)
加中福白箕和(近畿地区) 賀室丸石浦田 清義悦捨良 弘文智徳夫彦 和奈兵京滋大 歌良庫都賀阪	酒岡池吉山加川(東海北陸地区) 井田田田岸藤上 傅富政俊一憲治 雄豊夫直一郎 三愛静岐福富石 重知岡阜井山川	藍稲土(関東甲信越地区) 野葉門 和昭能 郎一夫 千埼茨 葉玉城	鈴伊莊吉奈福(東北地区) 木藤司川良士 弘栄貴健年寛 康二喜次永樹 山秋宮岩青福 形田城手森島	佐藤晴樹(北海道地区) 樹 北海道

事務局局長	事務局
佐川々木井	
多美子仁	
東京	

理事(副会長)	理事(副会長)	理事(副会長)
東押廣塚梶佐木緒(九州地区) 川瀬本原木村方 修政孝俊彰基俊知 一昭二郎夫成明秋 鹿宮大長佐福福熊 児岡分崎賀(中)(小)本 島崎	岡二杉西(四国地区) 田宮本川 裕孝和 健慈司裕 高愛徳香 知媛島川	杉山福徳(中国地区) 本崎井永 尚敦伸正 平史一郎夫 岡島鳥広 山根取島

## 全国連合退職校長会 綱領

われわれは 全国連合退職校長会の設立以来の歴史や活動を継承し わが国の教育の将来を見定め 会員としての自覚と誇りをもって ここに綱領を制定する

- 一 教育尊重の気運を高め  
日本の教育の振興に寄与する
- 一 生きがいをもって生涯学び続け  
充実した生き方を実現する
- 一 会員の親睦を図り  
福利・厚生 of 拡充に努める
- 一 地域の教育・文化の向上や  
良好な環境の形成に尽力する
- 一 関係機関・団体と連携・協力して  
活動の発展を図る

平成十六年六月十七日

(設立四十周年) 制定

## 令和七年度 総会 宣言

世界平和や自然災害等への不安が高まる中、心身ともにたくましく生きていく人材の育成には、教育尊重の気運を高め、新しい時代に相応しい教育の充実、向上に努めることが大切である。また、今日の社会保障制度改革の動向を見据えて、会員の福祉の増進に努める必要がある。

この時に当たり、全国連合退職校長会は諸課題について考究し、時宜に応じた意見や提案を発信するなど、各都道府県退職校長会の設立六十周年を迎える連合体としての活動を進めていく。

ここに、総会において、左記事項の実現に尽力することを宣言する。

### 記

- 一 各都道府県退職校長会との連携並びに各都道府県退職校長会相互の連携を一層密にし 健全な教育世論を喚起し教育の振興に寄与する
- 一 質の高い学校教育を願い 人材確保等教育諸条件の整備・充実を期し その研究協議を深め 政府・関係機関への要望や意見具申を行う
- 一 安心できる社会保障制度の確立のために政府・関係機関に要望を行い 会員の福祉の増進に努める
- 一 「チーム学校」の働き方改革への実効ある支援と地域学校協働活動への参画を通して 家庭や地域の教育・文化の振興に努め 併せて生きがいのある生涯学習を實踐する
- 一 会員相互の絆を大切にし 情報の共有や共通理解を図り 校長会をはじめ関係機関・団体との連携・協力を一層深め 組織の拡充・活性化を着実に進める
- 一 国民ごぞつて教育の在り方を考える日として 国民の祝日「教育の日」の制定と活動内容の充実を図るため 関係機関や団体とともにその推進に努める
- 一 東日本大震災・原発事故や能登半島地震をはじめとする 自然災害等により被災した地域の復興・創生と教育環境の正常化を 政府や関係機関に求めるとともに 会員の相互扶助と連帯の精神により支援に努める

令和七年六月六日 第六十一回 全国連合退職校長会 総会

令和7年度 活動目標・事業計画

活動目標

全国連合退職校長会は、教育尊重の気運を高め教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することを目的とし、諸活動の円滑な運営に努め、各都道府県の退職校長会相互の連携を密にし、設立60周年を迎え、連合体として充実した活動を展開する。

3 安心できる社会保障制度の確立のために政府・関係機関に要望を行い、会員の福祉の増進に努める。

(会員の福祉の増進)

1 各都道府県退職校長会との連携並びに各都道府県退職校長会相互の連携を一層密にし、組織の拡充・活性化に努め、期待され存在感のある退職校長会を目指す。

4 教職員が本来の教育活動に専念できるよう、外部人材の活用や「チーム学校」の仕組み等の働き方改革に関し実効ある支援を行う。

(働き方改革への支援)

2 質の高い学校教育を願い、教職員の定数・待遇改善や施設・設備等の教育諸条件の整備・充実を図るため研究・協議を深め、時宜に応じて政府・関係機関へ要望や意見具申を行い、教育の振興に寄与する。

5 地域全体で子供たちの成長を支え、地域の教育力の向上を目指す地域学校協働活動等への参画を通して、家庭や地域の教育・文化の振興に寄与する。

(社会貢献活動)

6 教育関係諸機関・団体と連携し、相互の協力・交流を深め、諸事業の円滑な運営に努める。

(諸機関・団体との連携)

7 会員相互の絆を大切にし、

会報やホームページ等諸情報  
の共有と共通理解を図り、校  
園長会との連携・協力を深め、  
組織の拡充・活性化に努める。

(組織の拡充・活性化)

8 生きがいのある生涯学習を  
実践し、会員同士の交流や研  
修・親睦を深め、豊かな生き  
方の実現に努める。

(生涯学習と豊かな生き方)

9 国民こそぞって教育の在り方  
を考える日として、国民の祝  
日「教育の日」の制定並びに  
その活動内容の充実を図り、  
教育尊重の気運の喚起・醸成  
に努める。

(「教育の日」の推進)

10 東日本大震災・原発事故や  
能登半島地震をはじめとする  
自然災害等により被災した地  
域の復興・創生と教育環境の  
正常化を政府・関係機関に求  
めるとともに、会員の相互扶  
助と連帯の精神に基づいて支  
援に努める。

(激甚災害地支援)

理事会報告

日時 令和7年6月5日(木)

午後1時

会場 きゅりあん(品川区立  
総合区民会館小ホール)

出席者 正副会長、常任理事、  
理事、監事等

67名

司会・進行 総務部 藤崎武利

1 開会の挨拶

副会長 太宰 明

2 会長挨拶 会長 田中昭光

3 令和6年度会務報告

総務部長 橋本誠司

4 令和6年度  
決算報告・監査報告

会計部長 三上裕三

監事 高田 勇

5 「役員選出」並びに「総会宣  
言の文案作成」について

8 地区の副会長による役員選  
出委員会、総会宣言の文案作  
成委員会を開催

そのため理事会は暫時休憩

事業計画

総務部

《総務部長 橋本誠司》

- 1 活動目標の設定、各組織間の連絡・調整、諸事業・活動の円滑な進行

- 2 総会、理事会、副会長会、常任理事会、60周年記念事業実行委員会等の運営

- 3 関係省庁や中央教育審議会等への要望・意見具申・提言

- 4 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会の実現

- 5 五校種校園長会等、教育関係団体との連携・協働

- 6 「年間紀要」の改善・簡素化「全連退情報」の発行

- 7 設立60周年記念式典・祝賀会の開催、記念誌等の発行

- 8 パソコン実技の部内研修
- 9 財務状況健全化検討会議、組織対策検討会議、運営対策会議

教育振興部

《教育振興部長 荻原武雄》

- 1 「教育の日」の活動支援

- 2 最近の教育用語と学校への浸透状況についての調査研究
- 3 全連退教育憲章の趣旨の普及

生涯福祉部

《生涯福祉部長 川名葉子》

- 1 会員の福祉の増進に係る意見を政府・関係機関に要望・提言

- 2 米寿・上寿者の調査、賀詞・寿詞による慶祝事業の継続実施

- 3 叙勲受章者の調査、叙勲枠の拡大等を関係省庁に要望・提言

広報部

《広報部長 永井洋子》

- 1 全連退機関紙「会報」年3回発行

- (235号・7月25日)
- (236号・11月28日)
- (237号・3月24日)
- 2 希望する都道府県各団体への新会員勧誘支援用「会報(236号)」の増配

- 3 全連退ホームページの適宜

更新

会計部

《会計部長 三上裕三》

- 1 会費納入者の減少に伴う支出項目の細部にわたる検討

- 2 設立60周年記念事業が予算内で納まるための諸経費の削減

- 3 財務状況健全化検討会議の継続、効率のよい予算執行の検討

教育課題委員会

《教育課題委員長 橋本誠司》

- 1 文部科学省や中央教育審議会等の情報の収集
- 2 学校教育の動向や当面する教育課題についての調査研究

事業委員会

《事業委員長 藤崎武利》

- 1 各団体の総会日程の把握・祝意に関する事業
- 2 全連退「概要集」の編集・発行

- 3 本部役員委員の研修会の企画

◇再開◇

6 総会の議長候補の選出

副会長 中室清文  
副会長 川端重義  
を選出

7 役員候補者選出報告

役員選出委員長 石川和幸

8 令和7年度活動目標

並びに事業計画

総務部長 橋本誠司

9 令和7年度予算書

会計部長 三上裕三 (P8・9)

10 「総会宣言」文案発表

文案作成委員長 川上憲治

11 その他

調査等の依頼

事務局長 川井 仁

12 全連退の歌

「光にかけて」斉唱

13 閉会の挨拶

副会長 塚本俊郎

## 設立60周年記念講演

『乱にいて治を忘れず  
治にいて乱を忘れず』

3・11震災語り部

菅原 貞芳様

宮城県気仙沼市から参りました菅原貞芳です。当時の宮城県の校長先生方は同じような苦しみ、同じような頑張りを、また生徒・保護者もいろんな辛い体験をしました。その中で志津川中学校での体験を紹介します。映像を見ていただきながら、話を進めていきます。

### 志津川中学校での体験

最初に緊急トイレについて。志津川中学校は標高52mにあるので、海に近くても子供たち、職員、避難した方々は助かった。断水で水が使えないので、雪をトイレ用の水に利用した。広い校庭の土を掘って大使用のトイレを作った。また、校舎内のトイレは小便のみで使用した。水

は自衛隊が運んできてくれたが飲用にはならない。この段階ではトイレは5基しか使えなかった。それは、トイレには清掃する人がいなければならぬからだ。

トイレは、綺麗などころは使われるが汚いところは使われない。飲食と排便是表裏一体でトイレの確保は重要。整然とした避難所運営のためにはトイレ管理が重要な要素。生徒320人に、清潔なトイレを綺麗に保とうとする意識が生まれた。トイレを清潔にして環境を保つことが人々の心を落ち着かせる。さらに感染症の発生を抑えるのに効果的であると思う。

志津川町には5362世帯あり、全壊が3162世帯、半壊が169世帯。61%の住居が全半壊した。志津川中学校では、生徒315名のうち167名が住居を流され、教職員25名のうち7名が住居を流された。3月12日、雪が降った。避難した方々には全員校舎の特別教室に入ってもらった。特別教室の数学教室とか

英語教室などに避難者を入れた。ほとんどの職員が各避難所からの情報を集めて、各避難所の収容人員を掲示板に貼って知らせた。偶然医師が1名避難してきていて、そこを救護室にした。

志津川中学校が指定されているのは一時避難場所。町に災害が発生した時に、一時的に避難し収まったら帰る、という場所だ。したがって、毛布もないし、水も備蓄されていない。私たちの学校は（災害に対して）何の準備もしていなかった。ですから生徒の引き渡しカードもなかった。学級名簿に引き取る方の名前、生徒との間柄、通じはしないが携帯電話の番号、そして固定の電話番号、それを書いてもらって生徒を引き渡した。ここに校長室9名という文字が見える。志津川中学校の場合は、校長室は生徒の教室と少し離れているのでここを乳幼児室にした。校長室で赤ちゃんが泣いても避難している人には声が届かないようにした。赤ちゃんは4人くらいいた。その赤ちゃんを

助けたのは昔の石油ストーブでした。反射式で、上でお湯が沸かせるもの。お湯を沸かして赤ちゃんにミルクをあげることができた。

3月13日。第1回の避難者の全体集会を開いた。全体集会で伝えたことは、情報の共有ということ。ご不便をおかけするが皆さん協力して生活していきましょう、というように私と避難者のリーダーの方で話をした。支援物資が徐々に届いてきた。中学生は支援物資の運搬をしてくれた。3月17日にやつと自衛隊のヘリコプターで支援物資が届いた。富山県から毛布が届き、やつと1人1枚の毛布を渡すことができた。3月18日には、315人の生徒と35人の職員全員の安否確認ができた。

兵庫県の先生方からアドバイスを受けていたので、第2回の全体集会で、部屋割りは町内会ごとに変更することを伝えた。そうしたところ、茶飲み友達と会える。幼い子を抱えている母親はママ友とも会える。そのよ

うに教室の雰囲気が大きく変わった。次に教えられたのは班長の次のナンバー2を育てること。動ける人はどんどん避難所からいなくなってしまう。いなくなつたあと補充をしないと部屋の運営がうまくいなくなる。兵庫県の先生はこんなことも言った。学校は徐々に徐々に避難所運営から教育活動へシフトしていくんですよ。徐々に徐々にですよ。阪神淡路では一気に学校が避難所から手を引いたところは、ずーっと何か月も避難所としてあつたそうです。なぜかというとまたゼロから人間関係を築かなければならないというように前進しない。

この段階では教育長が行方不明。3月中旬に2回、町長と教育委員長が出席して、今後の方針の協議を志津川中学校の校長室で行つた。3月28日に終業式、卒業式があつた。

支援物資は配布だが、弱者優先。支援物資を配つたのは、リーダーの会社員。支援物資の配布も工夫してもらつた。特に衣

類。3月とはいえ寒く、雪の降る日々が続いていた。もれなく配布できるようにと曜日を決めたり、時間帯を決めたり、男女別、年代別で配布してくれた。毎月11日は月命日なので全員で黙とうをした。

まだ学校再開はできていない。入学式と始業式をやつていないなかでの学習会再開。

沖繩の第15旅団のトラックが6月下旬まで校庭にいて、物資の移動や薪割、ご飯、みそ汁の準備をしてくれた。3月28日に県教委から発電機が届いた。コピー機が使えるようになり、新聞記事を拡大して各階の掲示板に貼つた。特に学校関係、交通事情、生活情報、県教委が配慮してそういった情報を流してくれたのはありがたかつた。夜の班長会は6時半から。進行は教師だったが、学校が何かから何まで関わつてはいけないということとで徐々に夜の班長会も班長さん方の輪番制にして当事者意識を持たせた。

4月14日から学習会。始業式

は5月11日。職員が避難所を巡回して学習会の連絡のビラあるいは各避難所にポスターを貼つて生徒たちを呼んだ。この段階でまだ校舎の1階は避難者が宿泊している。2階と体育館は学習会の場、3階は東京都庁・群馬県の支援団体の方々が宿泊していた。毎年志津川中学校では2日間の職場体験学習をやつていた。ところが職場で残つてるのは保育所と小学校・中学校・高校だけ。あとは全て津波で流された。そういうことで、私たちは支援にいらした方々にお願いしているんな場面を作つてもらつた。

職場体験学習ができないので、東京都庁の職員の方々毎回12人、トータルで130人くらいの方が我々を支援してくれた、その方々へのインタビュー活動を行つた。群馬の医療団の方からアドバイスがあつた。私たちがもらった割り箸と発泡スチロールで出来た茶碗を1週間以上使つていた。その頃、近場で157が発生した。使い捨ての割り

箸や食器の在庫がどれくらいあるのか、みんなで数えましょう、とアドバイスをもらった。数えたら使い捨てが可能なが分り、避難所の衛生管理は大きく改善された。

6月中旬まで校庭を使えない、8月下旬まで体育館が使えないという同じ条件の下で中総体の気仙沼町の地区大会が行われた。兵庫県の先生方が夏季学習会に来てくれた。長崎県南島原市の先生方も南つながりに来てくれた。岐阜県の県教委の事務所の方々も2年にわたつて来てくれた。この年はとんでもない暑い37度を超す運動会。岐阜県高山



市日枝中学校から来てくれた先生。1年間県のほうで派遣してくれたので、3年2組の担任をしてもらった。兵庫県の臨床心理士会による心のケアは、94日間まるで一人のカウンセラーが継続してカウンセリングを行っているような取組でした。先生繋がりで高山市の女声合唱団の方も来てくれた。合唱コンクールが近いと言うことでクラスごとに熱い指導をしてくれた。

### 3・11から学んだこと

まず、一時避難場所である本校を避難所として開放したことから学んだこと。厳しい状況の中であっても平和な時はどうだったかを考える。情報共有、弱者優先、安全確保、駐車場は前年度から後ろから駐車にしていた。車は流れをコントロールするため一方通行に。防災倉庫には秩序維持のための腕章、防犯パトロールのステッカーなどがあり、すぐ役に立った。あれば便利なものは、旧式の石油ストーブ。理科室にある細いろ

うそくではなく太いろうそくがあるとよい。光は安心感をもたらす。地区ごとの部屋割り。普段やっていいることはいざという時に伝わる。

また、震災前から取り組んでいたよかったこと、震災後に取り組んでこれからも取り組んでいきたいことを紹介する。平和な時こそ非常時を意識する。近くの志津川小学校に峰伝いに行ける道路を知らなかった。志津川小学校の先生がその道をたどって、避難者名簿を届けてくれた。道路が寸断されていて、歩くしかない。平和な時に近隣の避難所、学校、公民館へ通じる道を歩いてみることを、教職員もやってみたほうがいい。

次に伝えたいこと。全国の学校を回ると「うちの学校には出席簿がありません。使っていないせん」という学校がある。出席簿は「命の確認簿」。早退したのか、遅刻したのか、腹痛なのか、頭痛で保健室にいるのか、すべて出席簿にかかっている。出席簿は職員室から体育館、職

員室から理科室、職員室から校庭、と行ったり来たりしなければならぬ。職員の危機管理意識が出席簿で試されているのではない。いろいろな災害は授業中に起こるとは限らない。実践的な避難訓練は、実際に即した避難訓練でなければならぬ。

生徒が避難所を運営するのだが、思いは、子供たちが大きくなったときに避難所の運営を知っておいてほしいということ。生徒が地域を担う大人になった時に家族や地域を守る人材になってほしいという願いを込めた避難所運営訓練。そんなことを最終の防災学習としてやっている。保護者との緊急時の約束

ごとは、学級通信、学年だよりの裏面が空いていたら、何度も何度も繰り返し印刷して伝える。地区単位の活動は重要。いざという時は地区ごとに行政から対応が求められる。

安全点検を誤解している人がいる。点検して直せるところは自分で直してほしい。ある小学校では上履きをスリッパ型の運

動靴にしたとのこと。スリッパ、サンダルでは子供の命は守れない。教職員には全力疾走できる運動靴を履いてもらいたい。用務員さん、業務員さんと現役の先生はコミュニケーションを取ってもらいたい。平和の時ほど開かずの間の外倉庫の整理を。災害時の危機管理について、志津川中学校なりにまとめた話をさせていただいた。

最後に。いかなる想定外でも失ってならないものは子供の命。あとは被災した時は訓練にない多くの判断が求められる。普段から職員に柔軟な発想を引き出す、判断力を養う、ということに心を留めていただければと思う。3つめは、行政の担当者としてしっかり情報交換をしたり、確認をしたり、防災での思いを見える形にするために、学区内の住民の方々とお互いに顔の見える関係づくりに取り組んでいただきたい。こういうことを、現役の先生方の会では話して終わっております。ご清聴ありがとうございます。



北海道地区

期日 5月20日

会場 ホテルライフォート札幌

出席者 69名

北海道地区は単一退職校長会のため、他地区のような「地区連絡協議会」は設けていない。

それに替わるものが全道27支部の代表者が集まる「定期総会」と、10月に開催する「支部代表者会」である。

ここでは5月20日に開催した「第61回定期総会・創立60周年記念式典」の概要について報告する。

総会では、会長挨拶のあと、ご来賓を代表して田中昭光全連退会長からの祝辞をいただいた。その後、議長に札幌東支部遠藤紘之助支部長を選出し、報告・協議に入った。

報告事項（令和6年度事業報告、会計決算報告等4事項）に

ついては、いずれも了承された。

協議事項（6議案）には、7年度事業計画・会計予算案等例年の議案（すべて承認）に次の2点を討議した。

1点目は、会員の減少に伴う組織維持の抜本的な見直しを目的とした「会務運営検討委員会」の設立に関する提案である。2点目は、2年ごとの「役員改選」の提案で、いずれも承認された。

総会に続いて「創立60周年記念式典」が執り行われた。

国歌斉唱・千田薫実行委員長の式辞のあと、ご来賓を代表して北海道教育庁 猪口浩司教育部長監・札幌市教育委員会 佐藤圭一学校教育部長からの祝辞をいただいた。

会の中では、スライドで60年間の会の歩みを振り返り、また、全道各支部等の永年勤続功労者に、長年のご努力と功績に対して感謝状を贈呈した。

式典の後は祝賀会を催し、全道の会員との交流の場とした。

九州地区

期日 5月8日～9日

会場 水前寺共済会館

出席者 38名

本年度の協議会は熊本市で開催された。歓迎行事には「くまモン」が登場し開会に花を添えてくれた。来賓として、藤崎武利全連退事業委員長、越猪浩樹熊本県教育長のご臨席と祝辞を賜り、2日間にわたり全体会、分科会が行われた。

第1日（8日）【全体会】

協議題A 「魅力ある退職校長会の在り方と活動について」

各団体から、現職校長会との連携強化、学校応援団としての活動の充実、人材バンク名簿の作成、コロナ禍で停滞した研修会や懇談会・懇親会の再開など魅力ある会の在り方について協議が行われた。

協議題B 「全連退への要望」

事前に要望書を提出し、藤崎事業委員長から現状や進捗状況などの回答がなされた。

第2日（9日）【分科会】

★会長部会の協議題「退職校長会活性化のための充実した活動について」『生きがい』『やりがい』を感じ、絆を深める組織へ」

若手会員の役員への登用、福利厚生活動の充実、会員の所属意識の高揚を図る工夫などについて協議が行われた。

★事務局長部会の協議題A 「新会員の加入促進と会員の減少対策（定年延長等への対応）について」

入会案内のリーフレットの作成、新会員の集いの開催、勧誘活動の在り方の工夫などについて協議が行われた。

協議題C 「予算の確保と効率的な予算執行について」

会議の精選、LINE活用による経費節減など、財源確保について協議が行われた。

全体会（閉会行事）では「九州は一つ」を再認識し、協議会の更なる発展を誓い閉会した。

五反田だより(事務局)

令和七年は、昭和元年から丁度百年目にあたる。「昭和十二年生まれですか。今年米寿ですね。」昭和・平成・令和の年を合わせたりの必要がない。

昭和を振り返ると、教職に就いたばかりの昭和四十年代が懐かしい。経済成長著しい時期、光化学スモッグの発生で、体育の授業がしばしば中断したものだ。

初任者として赴任した学校には五十代後半の女性教師で、周りから神様、仏様と慕われる方がいた。担任として何も分からない私は二人の先生に大変助けて頂いた。運動会当日のこと、先輩から五時頃には学校に来て準備をするようにとの命令あり朝食どころではない。一番電車で駆け付けた。校庭のライン引き、テント張りの準備、放送機器の点検等一通り終わったところで用務員室に行くと、大きなお盆におにぎりやお赤飯、熱い味噌汁が用意されていた。二十代の食べ盛り、夢中でごちそうになった。これは、二人の先生が阿吽の呼吸で朝早くから準備されたものだった。

当時の学校には、明治、大正、昭和三世代の経験豊富な方々が揃っていた。

ある時、校長先生が、土曜日の午後、用務員室に来るよう言われた。さて、何かお叱りを受けるのかと気になった。用務員室に行くと、奥の三畳間で碁盤を前にして待っておられた。これから長い教職生活で心にゆとりを持つ上でも趣味として囲碁を覚えておくとよいと静かな口調で初歩の手解きを受けた。

ここで中村草田男の有名な句に倣って、「なつかしや 昭和は遠く なりにけり」のことがばが浮かんだ。

さて、残念なお知らせである。全連退の広報部長を長年担当してきた村山忠幸氏が逝去された。これまでのご苦勞に感謝と謹んで哀悼の意を表する。(M・Y)

◇4月

- 7 部長会
- 14 広報部会
- 16 教育課題委員会
- 17 令和6年度会計監査
- 18 部長会
- 21 広報部会
- 23 生涯福祉部会
- 24 第1回常任理事会

- 28 部長会
- 30 教育振興部会

◇5月

- 8 教育課題委員会
- 12 広報部会
- 14 部員・委員連絡会並びに設立60周年記念事業実行委員会
- 23 部長会

◇6月

- 5 令和7年度理事会
- 6 令和7年度総会
- 11 教育振興部会
- 13 生涯福祉部会
- 16 部長会
- 19 部長会・五校種校園長会
- 23 広報部会
- 24 教育課題委員会
- 27 やよい会
- 30 広報部会

◇7月

- 4 令和7年度第2回常任理事会
- 11 部長会
- 14・22・23 広報部会
- 31 令和7年度第1回副会長会

お詫ごと訂正

234号(令和7年3月21日発行)1ページ巻頭言の題名「約束と連携」は、正しくは「結束と連携」です。お詫びして訂正いたします。

編集後記

○暑い夏がやってきました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

○総会時の設立60周年記念講演は、東日本大震災当時、南三陸町立志津川中学校校長だった菅原貞芳様のお話でした。ご講演を拝聴しながら、3・11が自分の中でいまだに終わっていないことを再確認しました。

○村山忠幸広報部長が急逝されました。この会報235号の割付、編集日程などは、村山部長によるものです。村山部長の意を引き継ぎ、微力ながら会報作りに励んでいきたいと思っております。

全連退会報(235号)

発行 令和七年七月二十五日  
発行所 東京都品川区東五反田 五二一-1-1三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三(三四四)八七六八

FAX 〇三(三四四)八七六八

Eメール info@zenrenai.org

振替口座 〇一九〇一九四四七二〇

○責任者 田中昭光

印刷 株式会社 信行社

電話(〇三)三八三三三三六二二